

大橋教授 閉会御挨拶

(2月21日 TTPU セミナー「新しいモビリティサービスの実現に向けて～日本版 MaaS を利用者目線で検証する～」)

只今、ご紹介いただきました大橋でございます。
本セミナーの閉会に際し、一言御挨拶申し上げます。

まず、本日のセミナーに、講演者、パネリストとしてお越しいただきました皆様におかれましては、御多用のところ、貴重なご講演及びご意見を頂戴し、誠に有難うございました。また、会場の皆様も本日はお忙しい中ご参加いただきまして誠に有難うございました。

昨年4月からは、新たに観光政策に関する講座を開設するなど、当ユニットの柱である交通政策に加えて、観光政策に関する教育・研究機能を拡充しておりますが、本セミナーは交通・観光政策研究ユニット発足後初めてのセミナーとなりました。

4時間という限られた時間ではございましたが、「新しいモビリティサービスの実現に向けて～日本版 MaaS を利用者目線で検証する～」という時宜を得たテーマにつき、大変密度の濃いご講演とご議論をいただけたものと受け止めております。

本日のパネルディスカッションにおいては、MaaS が利用者にとって利用可能なものとするためにはどうすべきか、また、新しいモビリティサービスを実サービスとして定着させるために如何なる取り組みが必要かなどについてご議論いただきました(その他宜しければ先生の印象に残られた点をお話してください)。

また、冒頭の院長の開会挨拶においても言及されておりましたように、当ユニットにおける教育・研究活動につきましては、成田国際空港株式会社、日本空港ビルディング株式会社、空港施設株式会社、中部国際空港株式会社、東京国際空港ターミナル株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、東海旅客鉄道株式会社、東京地下鉄株式会社、公益財団法人日本交通文化協会などによる手厚いご支援の下、展開されております。関係の皆様方には、改めて厚く御礼申し上げます。

本日出席の皆様方におかれましては、当ユニットによる活動に対しまして、今後ともご支援、ご協力をお願いしますとともに、今日のセミナーが今後の新しいモビリティサービスの実現に大きく寄与することを祈念しまして、本日のセミナーの結びのご挨拶とさせていただきますと存じます。

本日は誠に有難うございました。

以上